

| | | | | | |
|------|-------------|-----------|------------|------|---|
| 講義名 | 基礎能力（新聞を読む） | | | 授業形態 | |
| 担当教員 | 村上 友章 | 開講期・曜日・時限 | 前期 木曜日 2時限 | 単位数 | 2 |

主題と概要

インターネットの普及など情報通信技術（ICT）の進展により、ニュースを知り、情報を得るための手段は、多岐にわたっている。しかし、そのような時代にあっても、社会人として職務を遂行する上で新聞を読み、それを業務に活用していくことの重要性は失われていない。本講は、社会人・企業人として、新聞が読み、理解できることの意義や業務との関連性に対する理解を促し、新聞を読むことへの興味を喚起することを通じて、新聞を読み、理解する上で求められる基礎的な能力を育成することを目的とする。

到達目標

新聞というメディアの特徴を理解したうえで、そこからニュースや情報を得ることができるようになる
社会人・企業人として、最低限、把握し、理解しておくべきニュース（時事問題）の種類、社会人・企業などの組織人としての生活や選択した学部・学科での学びとの関連性を理解できるようになる
個々のニュースの理解には、その背景にあたる政治・経済・社会の仕組みなどに関する基本的な知識が必要であることを理解し、そうした知識を能動的に身につけようとする姿勢を持てるようになる
新聞の一般的な記事を読み、理解できるようになる

提出課題

本講では、新聞記事を素材にした解説演習に加え、各紙の読み比べ、記事を探す、記事を書く（疑似体験）、まわし読み新聞を作る、など多様な演習（個人のワークの他、ペアワーク、グループワークを活用）を通じて新聞を読む力（読解力・問題発見力・分析力など）を身につける。これらの演習の過程で産み出された成果物の提出を求める。
なお、担当教員により課題内容は異なる。詳しくは担当教員の指示にしたがうこと。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出された成果物については講評・解説をあこなう。具体的な方法については、担当教員により異なるため、担当教員の指示にしたがうこと。

評価の基準

提出課題に対する個々の評価の積み上げによって評価する。
上記の到達目標に照らして、この科目で習得すべきと考える最低限の内容を習得しえていないと判断される場合は、出席日数にかかわらず不合格とする。また、5回以上欠席した場合も同様である。

履修にあたっての注意・助言他

「新聞を読む」力を身につけ、磨きをかけていくには、何よりもまず、実際に新聞を読んでみることが大切である。本講の履修をきっかけに、新聞やニュースに親しみ、「新聞を読む」ことを日々の習慣としてほしい
・講義の主題や目的、到達目標などはクラス間で共通であるが、講義の運営方法は担当教員により異なることに注意すること

教科書

| | | | |
|---------|--------|--------|--|
| 『新聞を読む』 | 流通科学大学 | (学内資料) | |
| | | | |

参考図書

| | | | |
|----|--|--|--|
| なし | | | |
| | | | |

その他

本学オリジナルの学内資料にくわえ、実際の新聞や新聞記事およびそれらを素材としたワークシートなどを配布・使用する。

授業計画

授業内容はおおよそ下記のようなものを含むが、その回数や順序については担当教員により異なる。詳しくは担当教員の指示にしたがうこと。

1. 社会人はなぜ「新聞を読む」必要があるのか
2. 新聞の種類・構成
3. 新聞記事の構成
4. 新聞はどのように作られるのか
5. ニュースを知る方針としての新聞の特徴
6. 新聞をどう読むか
7. 新聞から政治・経済の動きを知ろう
8. 新聞から社会の動きを知ろう
9. 新聞から政治・経済の動きを知ろう
10. 新聞から社会の動きを知ろう
11. 新聞から社会の動きを知ろう
12. 新聞から社会の動きを知ろう
13. 新聞から社会の動きを知ろう
14. 新聞から世界の動きを知ろう
15. まとめ - これからも新聞を読み続けるために

授業形態（アクティブラーニング）

| | |
|-------------------------------------|---|
| ア：PBL（課題解決型学習） | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認の要素を教室で行う授業形態） |
| ウ：ディスカッション、ディベート | エ：グループワーク |
| オ：プレゼンテーション | カ：実習、フィールドワーク |
| キ：その他（A1型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | |

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

担当教員の指示に従って予習復習をすること。
大学の講義では1回の授業に対して4時間の自己学習が必要とされている。本科目では、例えば予習として、次回の授業のテーマに関するテキストの該当箇所を読んで、それに関連する新聞記事を見つけ読みしておく。復習として、宿題とされた課題に取り組んだり、授業で採り上げたテーマや新聞記事に関する新規記事を検索し、読み比べたりするといった課題が想定される。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目は、本学が育成を目指す「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」となるために身につけておくべき基礎能力のうち、「新聞が読め、理解できる」力の養成を目指すものである。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

担当教員により異なる。詳しくは担当教員の指示にしたがうこと。

実務経験の有無及び活用

この授業の担当教員の中には実務経験のある教員も多くいる。実務経験のある教員は、自身の経験に即して、新聞を読みそれを業務に活用していくことの重要性について伝える。

備考

担当する教員によって、取り上げる新聞や新聞記事は異なる。また、同じテーマでも、どのような視点からそのテーマにアプローチするかによって授業内容は変わる。このことは、新聞記事についても言える。同じニュースに関する記事であっても、各紙の記事はそれぞれに異なる。新人の中には、このことに違和感を覚える人もいるかもしれないが、新聞記事に込められた情報から、受講生一人ひとりがどのような「知恵」を引き出すか、これこそがこの科目の大きな目的の一つだということを忘れないでほしい。